

拒絶理由通知書

特許出願の番号	平成11年 特許願 第213831号
起案日	平成17年 7月15日
特許庁審査官	杉江 渉 3441 4F00
特許出願人代理人	渡邊 一平 様
適用条文	第29条第2項、第29条の2、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

【理由1】 この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

【理由2】 この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願の日前の特許出願であって、その出願後に出願公開がされた下記の特許出願の願書に最初に添付された明細書又は図面に記載された発明と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許出願に係る上記の発明をした者と同じではなく、またこの出願の時において、その出願人が上記特許出願の出願人と同じでもないので、特許法第29条の2の規定により、特許を受けることができない。

【理由3】 この出願は、発明の詳細な説明の記載が下記の点で、特許法第36条第4項に規定する要件を満たしていない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

【理由1】について

- ・請求項 1～3
- ・引用文献等 1～3
- ・備考

引用文献1には、金型内被覆成形方法について記載されており、合成樹脂成形品を成形後、インジェクタにより塗料等の被覆剤を注入し、金型を閉じて圧力をかけ、合成樹脂成形体に塗料等の被覆剤を被覆・密着させること（請求項7、【

0027】、【0029】、図3）が記載されている。引用文献1の「インジェクタ」は、本願発明の「塗料注入機」に相当する。

請求項1に係る発明と引用文献1に記載された発明とを対比すると、請求項1に係る発明は、塗料注入後、金型を閉じて、型内圧力50～150kg/cm²で塗料を樹脂成形品に被覆・密着させた後、型内圧力5～20kg/cm²となるように制御する点で相違する。

上記相違点について、引用文献2には、樹脂注入後、金型を閉じて、型内圧力P1で樹脂を樹脂成形品に被覆・密着させた後、型内圧力を下げ、型内圧力P2となるように制御すること（特許請求の範囲、第4図）が記載されている。

引用文献1および2に記載された発明は、いずれも金型内被覆成形方法に係る発明であるから、引用文献1において、型内圧力P1で塗料等の被覆剤を被覆・密着させた後、型内圧力を下げ、型内圧力P2となるように制御することは、当業者が容易に想到し得る。

また、その際に、型内圧力P1およびP2をどの程度の圧力に設定するかは、当業者の通常の創作能力の範囲内で適宜設定し得る。

請求項2に係る発明の、金型に副キャビティおよび溝部を形成する点については、引用文献1に補助キャビティ（本願発明の「副キャビティ」に相当）および溝条（本願発明の「溝部」に相当）を有する金型内被覆成形用金型が記載されていることを参照されたい（請求項7、図3参照）。

請求項3に係る発明について、金型内被覆成形方法において、トグル式射出成形機もしくはトグル式電動射出成形機を用いることは、当業者が適宜選択し得る技術的事項に過ぎない（例えば、引用文献3の請求項1参照）。

【理由2】について

- ・請求項 1
- ・引用文献等 4
- ・備考

先願発明4には、金型内被覆成形方法に係る発明が記載されており、インジェクタ12により被覆剤を注入後、型内圧力70kgf/cm²で被覆剤を樹脂成形品に被覆・密着させた後、型内圧力を下げて、型内圧力17kgf/cm²となるように制御すること（【0013】、【0028】、図1）が記載されている。先願発明4の「被覆剤」は、本願発明の「塗料」に相当する。

請求項1に係る発明と先願発明4を対比すると、両者の発明特定事項に差異はない。

1. 特開平 9－4 8 0 4 4 号公報
2. 特開平 3－1 7 8 4 1 2 号公報
3. 特開平 9－7 6 2 7 8 号公報
4. 特願平 1 1－1 8 7 3 6 号 (特開平 1 1－2 7 7 5 7 7 号)

【理由 3】について

・備考

本願の発明の詳細な説明の【0 0 4 1】には、「セロテープ」という記載があるが、「セロテープ」はニチバン株式会社の登録商標である。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C 第 7 版 B 2 9 C 4 9 / 0 0 - 4 9 / 8 0

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知書についてのお問い合わせがあるとき、またはこの出願について面接を希望されるときは、以下までご連絡ください。

特許審査第三部 プラスチック工学 一宮 里枝

T E L . 0 3 (3 5 0 1) 0 6 3 9 F A X . 0 3 (3 5 0 1) 0 6 9 8